総合問題④（Leçon 10～12） 解答と解説

Ⅰ.4 問×各 4 点=16 点 Ⅱ.3 問×各 4 点=12 点 Ⅲ.5 問×各 4 点=20 点 Ⅳ.6 問×各 4 点=24 点 Ⅴ.7 問×各 4 点=28 点

Ⅰ. 1) Elle voudrait aller en France. 「彼女はフランスに行きたいと思っています」	動詞 vouloir の条件法現在形の語幹は不規則 voud-となり、語尾は 3 人称単数の-rait である。語調緩和を表す。
2) Tu devrais faire des exercices tous les jours. 「君は毎日運動をすべきではないかな」	動詞 devoir の条件法現在形の語幹は不規則な dev-となり、語尾は 2 人称単数の-rais である。語調緩和を表す。
3) Pourriez-vous fermer la porte ? 「ドアを閉めていただいてもよろしいでしょうか」	動詞 pouvoir の条件法現在形の語幹は不規則な pour-となり、語尾は 2 人称複数の -riez である。語調緩和を表す。
4) Cela me ferait plaisir de rencontrer Anne. 「アンヌさんにお会いできると嬉しいです」	動詞 faire の条件法現在形の語幹は不規則な fe-となり、語尾は 3 人称単数の-rait である。語調緩和を表す。
Ⅱ. 1) Le président de la République serait arrivé hier soir. 「共和国大統領は昨日到着した模様だ」	動詞 arriver の複合形では助動詞は être を用いる。過去の事柄に関する推測を表す。
2) J'aurais aimé manger plus de gâteaux. 「私はもっとケーキを食べたかったんだけどなぁ」	動詞 aimer の複合形では助動詞は avoir を用いる。過去の事柄に関する後悔を表す。
3) Tu aurais pu venir avec nous. 「君は私たちと一緒に来ることができただろうに」	動詞 pouvoir の複合形では助動詞は avoir を用いる。過去の事柄に関する非難を表す。
Ⅲ. 1) S'il faisait beau, j'irais à la plage. 「もし晴れているならば、ビーチに行くのになぁ」	Si + 直説法半過去 , 条件法現在で 現在の事実に反する仮定を表す。
2) Si on va à Strasbourg, on visitera la Petite France. 「私たちはストラスブールに行ったら、プティット・フランスを見学するでしょう」	Si + 直説法現在, 直説法単純未来 / 近接未来等で実現可能な仮定を表す。解答例は直説法単純未来であるが、近接未来 va aller でも可能であり、心理的により近い未来を表す。
3) S'il n'avait pas neigé, l'avion serait parti à l'heure. 「もし雪が降らなかったならば、飛行機は時間通りに出発しただろうに」	Si + 直説法大過去, 条件法過去で過去の事実に反する仮定を表す。動詞 partir の複合形（条件法過去）では助動詞は être を用いる。
4) Si elle travaillait plus, elle gagnerait plus d'argent. 「もし彼女がもっと働くなら、もっとお金をかせぐでしょうに」	Si + 直説法半過去, 条件法現在で 現在の事実に反する仮定を表す。
5) Si la réunion avait fini plus tôt, nous aurions bu un verre ensemble. 「もし会議がもっと早く終わっていたならば、私たちは一緒に一 杯飲みに行ったのになぁ」	Si + 直説法大過去, 条件法過去で 過去の事実に反する仮定を表す。
Ⅳ. 1) Marie nous a dit qu'elle était arrivée en Italie la veille. 「マリーは、前日にイタリアに着いたと私たちに言いました」	直接話法の文が平叙文の場合、間接話法では[que（qu') + 主語 + 動詞]となる。また、直接話法の文が直説法複合過去形なので、間接話法の主節が過去の場合、従属節は時制の一致によって直説法大過去形となる。従属節の動詞 arriver は複合形では助動詞 être をとり、主語と性・数の一致が起きる。直接話法にある時の副詞 hier は、間接話法では過去のある時点を基準とするので la veille になる。
2) Le serveur m'a demandé si je payais par carte. 「ウェイターは、カードで払いますか、と私に尋ねました」	直接話法の文が oui/non で答える疑問文の場合、間接話法では[si + 主語 + 動詞]となる。また、直接話法の文が直説法現在形なので、間接話法の主節が過去の場合、従属節は時制の一致によって半過去形となる。

3) Le médecin lui dit souvent de ne pas fumer. 「お医者さんは、煙草を吸わないように、と彼によく言います」	直接話法の会話文は命令法のため、間接話法では[de + 動詞の原形]となる。否定の ne と pas は、動詞が原形の場合は前に置かれ、ne pas 動詞の原形となる。
4) Ma sœur m'a demandé qui mangerait ce gâteau. 「私の妹は、誰がこのケーキを食べるのか、と私に尋ねました」	直接話法の文が qui est-ce qui で尋ねる疑問文の場合、間接話法では[qui + 主語 + 動詞]となる。また、直接話法の文が直説法単純未来形なので、間接話法の主節が過去の場合、従属節は時制の一致によって条件法現在形となる。
5) Mon professeur leur a demandé ce qui se passait. 「私の先生は、何が起きているのか、と彼らに尋ねました」	直接話法の文が qu'est-ce qui で尋ねる疑問文の場合、間接話法では[ce qui + 主語 + 動詞]となる。また、直接話法の文が直説法現在形なので、間接話法の主節が過去の場合、従属節は時制の一致によって直説法半過去形となる。
6) La vendeuse nous a demandé ce que nous avions choisi. 「店員さんは、何を選びましたか、と私たちに尋ねました」	直接話法の文が qu'est-ce que で尋ねる疑問文の場合、間接話法では[ce que + 主語 + 動詞]となる。また、直接話法の文が直説法複合過去形なので、間接話法の主節が過去の場合、従属節は時制の一致によって直説法大過去形となる。
V. 1) Je souhaite qu'il réussisse son examen. 「私は彼が試験に合格することを願っています」	主節に願望を表す動詞 souhaiter が用いられているため、従属節の動詞は接続法となる。
2) Je ne pense pas que tes clés soient dans cette salle. 「私は君の鍵がこの部屋にあるとは思いません」	主節に動詞 penser が用いられた場合には従属節の動詞は直説法となるが、本問題のように、否定形あるいは疑問形で、話し手が事実とは疑わしいとみなす場合は、従属節の動詞は接続法となる。
3) J'ai peur qu'elle ne vienne. 「私は彼女が来るのではないかと恐れています」	主節に疑惑を表す表現 avoir peur が用いられている場合、従属節の動詞は接続法となる。主節に疑惑を表す表現を用いているので、「～でなければよいのだが」という否定的心理を反映して、従属節に「虚辞の ne」が用いられている。
4) J'espère que tout va bien maintenant. 「私は今、すべてがうまく行っていると願っています」	主節に動詞 espérer が用いられた場合は、従属節の動詞は直説法をとる。
5) Bien qu'il ait mal à la tête, il joue au tennis. 「彼は頭が痛いのにも関わらず、テニスをしている」	従属節に譲歩を表す接続詞句 bien que が用いられている場合、動詞は接続法となる。
6) Il faut que je finisse ce travail tout de suite. 「私はこの仕事をすぐに終わらせなければなりません」	主節に必要性の価値判断を表す非人称構文 il faut が用いられている場合、従属節の動詞は接続法をとる。
7) Je sais qu'il a vu cet acteur la semaine dernière. 「私は彼が先週その俳優に会ったことを知っています」	主節に動詞 savoir を用いた場合は、話し手が事実だと認識しており、従属節には直説法を用いる。本問題の従属節に、時の副詞 la semaine dernière が含まれているため、過去のことであるとわかる。そのため、過去のある一時点で行われた行為を示す時制として複合過去形をとる。